

熊本城と近代化

熊本城調査研究センター
佐藤理恵

1. 「江戸」から「明治」へ

○政治の担い手の変化

- ・大政奉還：慶応 3 年（1867）10 月 14 日
→徳川慶喜、政権を朝廷に返上…政治の担い手の変化
- ・戊辰戦争：慶応 4 年（1868）1 月～明治 2 年（1869）5 月
→諸藩軍隊を政府が編制
→洋式兵器の威力
- ・版籍奉還：明治 2 年（1869）1 月～
→藩主らによる土地・人民の朝廷（天皇）への返上政策
藩主らは改めて知藩事に任命

2. 維新时期の熊本城

① 城の廃毀案

- ・明治 2 年の藩政改革案に天守の取り崩し
- ・明治 3 年（1870）7 月：藩庁を花畑の旧藩主邸に移す
- ・明治 3 年 9 月 城の廃毀願
軍制や武器の近代化により、かつての「金城湯池」も、「無用の贅物」
→廃藩置県前に出された城郭廃毀申請は 46 に及ぶ¹
- ・維新时期熊本城の様子
- ・明治 4 年（1871）7 月、廃藩置県

② 城の変化

- ・明治 3 年 10 月、古城医学校開校
- ・明治 4 年 7 月、錦山神社の遷座
- ・明治 4 年 9 月、洋学校開校

3. 熊本城の陸軍用地化

① 鎮西鎮台の熊本設置

- ・明治 4 年 8 月、鎮西鎮台の設置。本営は熊本。
- ・明治 4 年 10 月、花畑旧藩邸を鎮台兵屯所とする。
- ・明治 6 年（1873）1 月、熊本城「存城」となる。
- ・明治 6 年 3 月、二の丸操練場において鎮台兵営の建築始まる。
- ・明治 7 年（1874）6 月、熊本城が陸軍用地に編入される→本格的に軍用地化
熊本鎮台本営が熊本城本丸に移転する
錦山神社の移転、医学校の移転、洋学校の廃止
- ・明治 9 年（1876）2 月、病院落成。
この年に鎮台の諸施設がほぼ完成したとみられる。

② 熊本城内外の軍用地の拡大

神風連の変→城内に残る私有地の軍用地化が進む
西南戦争→市街地の焼失、山崎練兵場の拡大

【主要参考文献】

『肥後藩国事史料』（侯爵細川家編纂所、昭和 7 年）

『アメリカ彦蔵自伝』（平凡社、昭和 39 年）

森田誠一「幕末・維新时期における肥後熊本藩」（『明治維新と九州』、福岡ユネスコ協会編、1973 年）

荒木精之編『写真の先駆者 富重利平作品集』（富重利平作品集刊行会、昭和 52 年）

森山英一『明治維新 廃城一覽』（新人物往来社、1989 年）

『第六師団と軍都熊本』（熊本近世史研究会、2011 年）

『マンスフェルトが見た長崎・熊本 古写真で見る近代医学校の成立』（長崎文献社、2012）

『幕末・維新の銃砲大全』（洋泉社、2013 年）

井桜直美『内田九一 皇城と西国・九州巡幸』（JCH フォトサロン、2015 年）

¹ 一坂太郎『幕末維新の城』（中公新書、2014 年）249 頁